

ブラウザーを活用しよう(3)

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

用語やシステムの理解

HTML テキストを作成する作業は次のような手順になります。

- 1, アウトラインを考える
- 2, 原稿作成
- 3, リソース (MIDI ファイルやサウンドの準備)
- 4, HTML テキストの編集

例えばMIDIファイルを張り付けようとする場合、ファイルが無かったらそれをつくらなければなりませんので、実際にはこの順番にはなりませんが、大体このようなステップがあります。

この中でリソースという言葉が出てきます。コンピュータのソフトにも同じ言葉が使われますが、ここでは「装飾要素」くらいの軽い意味で使います。

よく使われる用語にリンクと言うのがあります。リンクとは「つながったもの」というような意味で、「ホットテキスト」のようにその文字や言葉をクリックすると関連するページやオブジェクトが開くものや「ホットリソース」のように文字以外のアイコンやボタンなどをクリックすることでリンクされたソースが開くものです。

内容と言えばよいものをコンテンツと呼ぶのは「情報」という意味も含めて言うからでしょう。

さてHTMLで音楽情報(コンテンツ)を利用するためには、どんな拡張子のついたファイル(リソース)を用意すればよいのでしょうか。

現在HTMLで再生可能な音楽リソースはMIMEと呼ばれる形式で認められたものだけになっています。その拡張子がmidi、mid、smf、kar等のものやいろいろなものも最近では出てきましたが、MIMEタイプはすべて【audio/

】という形式で登録されます。代表的なものは【audio/mid】や【audio/x-mid】ですがx-が追加された拡張形式のものも含めると20以上もあるようです。

これらのMIMEタイプはローカル即ち自分のコンピュータの内部だけで使用されるリソースに関しては無頓着でよいのですが、LANの外へそのデータを送るときはサーバマシンに使用するMIMEタイプを登録しておかなければなりません。

私も最初MIDIファイルを鳴らすホームページを作ったとき自分のコンピュータではちゃんと鳴るので安心していたら、友人から「鳴らないしダウンロードしたら読めないテキストファイルだった」と言われて初めてそのことを知りま

した。最近のプロバイダはすべてこの辺のことを心得ているようで最初から殆どのMIMEタイプに対応しているようですが、これはプロバイダやサーバの管理者しかできない作業なので、自分がサーバである場合を除いて依頼して登録作業をしてもらわなければなりません。しかし、自分のエリア(LAN)だけで開く時はその必要はありません。

それでも、ネットスケープなどでは「設定」画面でアプリケーションとしてそれが使用できるようにしなければなりません。

荒っぽいやり方ではありますが、すべてのオーディオファイルを「QuickTime」で再生するように「QuickTime」を設定してしまうと殆ど再生という点では問題は無いでしょう。

しかし、私のホームページ「<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/hrsuzuki/Jindex.html>」を開きますとしばらくしてモーツァルトのピアノ五重奏ト短調が鳴りますが、このデータはヤマハのXG音源を想定して作りしたので「QuickTime」や内蔵の音源であるローランド社の音源では全然弦楽器の勢いが違うのです。この違いは相当大きく音楽表現そのものが変わりますので是非その違いを聴き比べて下さい。

また一部の音声ファイルとMIDIファイルが同時に鳴るアプリケーションで作ったデータは両者のシンクロナイズがコンピュータの能力次第で大きくずれます。

いわゆるソフトシンセと呼ばれるシンセはすべて発音が遅れます。

また、WAVやMP3などの音をデジタル信号として記録再生する場合ファイルサイズが非常に大きくなりますので、メモリやハードディスクの容量が小さいとコンピュータがフリーズしてしまうこともあります。その意味では音源によって同じ音になる保証はないもののMIDIファイルが一番コンパクトで扱いやすいでしょう。

数曲のMIDIファイルにリンクするだけなら

<HTML>

1 番タグ開始、(曲1) 1 番のタグ終了

2 番タグ開始、(曲2) 2 番のタグ終了

N 番タグ開始、(曲N) N 番のタグ終了

</HTML>

のように一行ずつ書けばよいのですがその一行は

クリックされる文字やアイコン

のように記述します